

ハコモノ整備でもソフトが大事。 「使いながら作る」実践談



真岡市総合政策部プロジェクト推進課 マリエッティ (黒川 麻里絵)

1

真岡市の概要

もおか MOKA

人口は 77,635人
(令和4年4月1日)

自慢は ①いちご
②真岡木綿
③S L



都心から90km圏内

2

プロジェクト推進課複合交流拠点整備係

複合交流拠点の整備

- 子育て支援センター、図書館、地域交流センターの複合施設
- DBO方式の採用 設計建設+維持管理運営～R22.3まで
- 建設事業費 38億820万円
- 国庫補助 都市構造再編集中央支援事業

まちづくりプロジェクト

- 高校生以上とまちづくり
- モッタイナイ公共空間の活用
- 社会実験

令和7年春、市庁舎北側に開館予定



「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」複合交流拠点

1. 子育て支援センター

- 屋内型子ども広場、屋外型子ども広場

2. 図書館

3. 地域交流センター

「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」複合交流拠点

1. 子育て支援の充実

2. 生涯学習の推進

3. 中心市街地のにぎわい創出や活性化

人口減少、少子高齢化が進展する社会においても、真岡市に生まれ、育ち、住んで良かったと実感できるまちづくりを進め「選ばれる都市(まち)もおか」の実現を図る

ハコモノ作るだけじゃだめだよ…
課題(黒川の思う)

- にぎわいの波及
- コスパ最高の公共施設
- 若者への投資

真岡まちづくりプロジェクト(まちつく)

高校生以上20名のメンバーで、もったいない公共空間の利活用を提案し、社会実験として実行する。

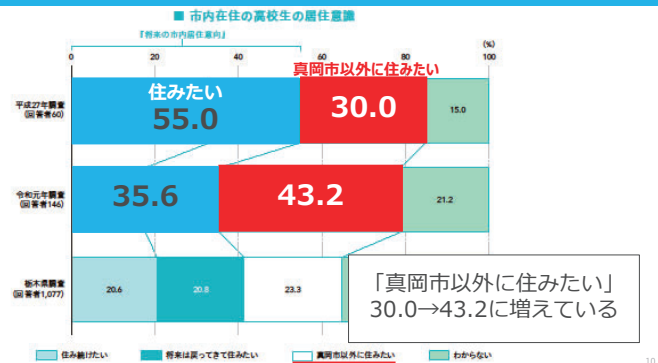
これまでの行政による施設整備を中心としたまちづくりだけでなく、**既に整備された公共施設や公共空間**を活用し、**民間の創意工夫**を活かした提案によって、**官と民が連携するまちづくり**を進める(令和2年12月市議会、答弁要旨)

- ・5～7月 「まちをつくろう」ワークショップ4回
- ・7月以降 5チームでの社会実験を実施

背景1 真岡市に住みたい高校生激減



真岡市以外に住みたい 30.0→43.2 増えている!



自分が

住みたいまちを
つくって楽しもう

建設前からできる!

背景2 モッタイナイ公共空間いっぱい



もったいない公共空間12カ所

- ①久保講堂
- ②五行川河川緑地
- ③花園公園
- ④青空ステーション
- ⑤金鈴荘
- ⑥久保記念観光文化交流館
- ⑦まちあるき駐車場
- ⑧松田屋本店跡地
- ⑨城山水辺公園
- ⑩久下田駅さくらホール
- ⑪どんとこい広場
- ⑫二宮コミュニティセンター

公共空間使いまくる

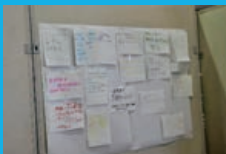
建設前からできる！

ワークショップ 第1回

マインドセット
シモツケクリエイティブ
山口真明さんの講話

ウィッシュボエム
やりたいことを書き出す

ワークショップは必ず
市内の店のおやつ付
大人からの募金で賄う
この日はコーヒー



第2回まちあるき・アイデア出し・グループ分け
第3回ブラッシュアップ

第4回提案発表会 ここで終わりじゃない



「社会実験」 やることが大事

やらないと変わらない、楽しくない！

例えば

五行川
河川緑地



BEFORE

- ・真岡の夏まつり花火大会
- ・ドクターヘリの臨時乗降場
- ・市民の散歩等
- ・年間の維持費 **約100万円**
(芝刈り)



10月24日

RIVER+ ピクニックマルシェ

推計 **2,400人**が来場

(Yahoo!位置情報)

ピクニックマルシェ



ピクニックマルシェ



パブリックサイン制作



ドッグラン



11月28日

二宮コミュニティセンター
(旧町役場)
約 **1,500**人が来場



12月18日

県指定文化財
岡部記念館「金鈴荘」
真岡女子高の部活とコラボ



第三セクター
真岡鐵道久下田駅
(無人駅)

福祉作業所
アート部門とコラボ



真岡市役所2階
 青空ステーション(市民テラス)
 開館時間延長を提案
 ベンチ製作



- 公共空間 **5カ所**
- 参加者 **5,600人**
- 協力団体 **58団体**

- 市内企業、真岡青年会議所、建設業協会、
- 市民活動推進センター、福祉団体、市図書館、
- 文化協会、観光コンシェルジュ、市内高校など

収益 **111,520円**
(市に63,145円を寄附)



募金 **55,020円**
(東日本盲導犬協会に募金)



R4 学生20名募集で41名の応募



令和3年
 20名 **女性13名**・男性7名

令和4年
 41名 女性25名・男性16名
 運営、大人も含めると
55名 **女性35名**・男性20名

グッドデザイン受賞

まちの次代を担う高校生が、公共施設を使いながら、自分たちの手で住み続けたい地域をつくる。
地域と何らかの関わりを持ちたいという意識を持つ若者が増え、それが地域への愛着につながっていく。

このプロジェクトは**社会実験という枠を超え、すでにまちを動かすエネルギーになっているようだ**。これまで9回、5,000人ももの若者たちが参加してきた実績が、そのことを物語る



37

グッドデザイン受賞

アクションのフィールドとして、公共施設という場を提供できたことも注目したいポイント。

さまざまな団体や施設との連携が加わるたびに、若者が活躍する機会が増えていく。

人口流出を課題にしている多くの地方都市が、**未来を考える際に参考にしたい取り組み**ではないだろうか。

38

国土交通省 第39回地域づくり表彰受賞

表彰名	受賞者名 (所在地)	(全国地方公共団体コード欄)
国土交通大臣賞	清流と山菜の里 ほその村 (山形県尾花沢市)	
	一般社団法人 東彼岸ひとことも公社 (長崎県東彼岸町)	
全国地域づくり推進協議会会長賞	真岡まちづくりプロジェクト (栃木県真岡市)	
	合同会社 暮らしの編集室 (埼玉県北本市)	
国土計画協会会長賞	ささるブ応援隊 (山口県萩市)	
日本政策投資銀行賞	久山町 (福岡県久山町)	
地域づくり表彰審査会特別賞	一般社団法人 ふるさと楽舎 (広島県広島市)	
	特定非営利活動法人 美郷宝さがし探検隊 (徳島県吉野川市)	

39

真岡まちづくりプロジェクト (栃木県真岡市)
— まちを使った高校・大学生らの持続可能性を見据えた取組が、地域の元気の起爆剤に —

●活動の概要：もったいない公共空間をキャンパスに、若者がやりたいことを実現
「まちつく」は、学生を中心に据えた、まちなかの実験的な取組の企画・実行グループ

「農・商・工がバランスよく調和した理想的な地方都市」だったはずがアンケートでは、たった1年生で高校生の定住意識が55%から37%に急低下したことに市の危機感
●若者は「まちづくりを『わがごと』』として考えてもらうため高校生・大学生中心の『まちをつくらう(まちつく)プロジェクト』を開始

▶「まちつく」メンバーが、まちあるきで魅力的な場所を発見し活用を模索
▶例えば、市役所向かいの河川敷に映(ぼ)えるモニュメントを作りマルシェを開催したり、指定文化財の別荘で和風クリスマスを実施したりと、若者が、従来の、従来の利用だった地域の公共空間・施設を、自分の創造の舞台として自在に活用する事業を展開

▶学生主催の実験的試みで多くの顧客を得る等の成果を挙げたことから、活動を見た市長から協力の申し出や、自分たちでも何か企画したいとの声も出て、「まちつく」でない市民の事業の発想も地域の中に高まってきており、一過性で無い活力が生まれた

▶特に、観光コンシェルジュや福祉団体、多様な主体からも連携の申出がある等、市民協働のまちづくりの模範のひとつとして、取組の輪はますます広がりを見せている

●認定理由：若者の意見に真摯に向き合い、若者を真の主役として、持続可能な形で地域づくりを促わせたこと
「市に残りたい」という高校生割合の激減ショックに目を覚まし、若者自身が当事者として課題に向き合い、実施まで行わせる大がかりな実験を、まちぐるみで支援したことを評価。高校生や大学生をまちづくりに巻き込む企画は多いが一過性のものになることが多いなか、事業開始から日が経つものの、足元を見据え財源の資金支出に関する取組や、市や各種団体が十全に支える等、継続性・発展性を強く意識したものとなっており期待できる。若者自身が、まちの無件資源の活用とともに地域の課題に向き合い「わがごと」として認識することで、主体的な地域づくりの責任と面白さを体験でき、新しいエネルギーが地域に生まれており、社会実験の域を超えた価値がある。

■問合せ先 ■ 真岡市 プロジェクト推進課 ☎ 0285-83-8050

40

みなさん マネしてください

できない理由は何だろう？

うちのまちにそんな人いません

41

42

います。

- スーパースターはいなくても大丈夫です
- 提案だけには飽きてます→実行
- 学生もモチベーション下がっているだけです

コロナだから無理です

無理じゃないです。

- まちつくは令和3年にはじまりました
- コロナだからできたのかも
- 屋外空間で住民の生活を楽しくする

わたしにはできません

**いいえ、
誰でもできます。**

- 自分でやるのではなく、市民のやりたいをサポートするのが主です

でもサポートも大変です…

**成果見えるのに
時間かかりますよね**

1年で変わります

- すぐできる、見える事やります
- まちづくりがすすんでいるまち
アピール→意識付け

「まちつく」が目指すもの

- ひとづくり
- 地域づくり
- にぎわいづくり

一人の100歩より、**100人の一歩**

まちつくインタビュー(地域おこし協力隊)

•人・想いを共有

•第三者に聞いてもらうことで、想いを知る



未来へのドア開けて
一歩踏み出そう

＼勇気がでない人は、ドアを開けた人に付いて行こう！



@mokamachidukuri
ぜひ、フォローお願いします



Instagram

note
Facebookも
あります